

# 下古山のもう一つの「お宝」～子どものたまり場 Sango-papa～

下古山は平成の区画整理などでできた新興住宅地と昔からある街が融合している地域です。下古山は古山小学校の通学区域にあたり、学校に近い新興住宅地の一角に Sango-papa (サンゴパパ) というお店があります。ここは手作りのフェルト製ケーキなどの雑貨を置いているお店ですが、地域の子どもたちが集まる駄菓子屋さんでもあります。Sango-papa の井ノ上さんにお話を伺いました。

Sango-papa は井ノ上さんの妻でフェルト雑貨を制作している京子さんが始めました。店名の由来ですが、京子さんのお父さんの名前、「さんご」さんから付けたものです。



井ノ上宏樹さん

子どもは色々な事を経験して多様なことを学ぶことが大事だと思います。Sango-papaは子どもたちが友達をつくる地域の社交場であってほしいです。

井ノ上さんは会社員の傍らお店に立っており、現在は主に土日にお店を開けています。

お店を始めて15年が経ちましたが、昔来ていた子たちが成人してまた来てくれるのが嬉しいです、大人になったなあ感慨深いですね。

開店当初は、フェルトケーキなどの作品展示が主でしたが、だんだんと駄菓子が増えていき、現在のかたちになりました。

井ノ上さんは若い人がUターンして地域を盛り上げようとしていることを応援したいんだって。お店に通っていた小学生が成長して市外へ出て、また生まれ育った地元に戻り活躍して、またその子どもがお店に来て、、、なんて続いてほしいな。



所狭しと並んだ駄菓子は大人も童心に帰させます。



本物みたいなフェルト製のケーキ



井ノ上さんが子どもの頃、あちこちにあった駄菓子屋は子どもたちがコミュニケーションをとる場所でした。時代とともに少子化が進み人々のライフスタイルは変化しましたが、Sango-papaに来る子どもたちは昔と変わらず皆楽しそうに駄菓子を選びながら話しかけてくるそうです。お客さんが地元愛を育ててくれればうれしいとのこと。Sango-papaを取材して、新しい地域にもコミュニティの核として子どものコミュニケーションの場が生まれ、地域に定着していることが分かりました。



## つながッテルね! 条例11条

### (子どもの参画)

第11条 市民、議会及び市は、子どもを下野市の未来を担う地域の宝として育てるとともに、子どもがまちづくりに参画する機会を積極的につくり、その意見を尊重するものとする。